

茶山台 としょかん のつくりかた

open

welcome!

今日は、
開いています

人らしく
人らしく

泉北レモン
愛宕 100%

有料駐車場につき
契約者以外



人が集まる「場」をつくろう

こんにちは!今、みなさんはこのブックレットをどこで読んでいますか?どんなまちのどんな仲間と手に取っていますか?おそらく、みなさんはそれぞれの地域に関わり(あるいは関わりたいと思いながら)「人が集まる場づくり」に興味があることと思います。

もしかすると、この記録だけでは、明日から使えるヒントや、膝を打つようなアイデアは得られないかもしれません。ただ、公社茶山台団地にできた「茶山台としょかん」というコミュニティスペースが歩んでいる道のりを知っていただくことで、少しだけ考え方を広げ、構えすぎになりがちな場づくりに対する気持ちを軽くすることならできます。

なぜなら、「茶山台としょかん」もまた、他の地域の取り組みに何度も勇気づけられて来たからです。このブックレットが全国で地域に関わるみなさんへの恩返しになれば幸いです。



この本の使いかた

1. 人が集まる場をつくりたい方へ

立ち上げの経緯から、段階的に記録しています。場づくりの進め方の参考にしてください。

2. 運営している場のヒントに

ポイントになったエピソードをピックアップしました。事例集としてお役立てください。

3. これから地域に関わりたい方へ

いろいろな関わり方の人達からコメントを集めました。自分の地域に置き換えてみてください。

4. 茶山台としょかんのことを知る

約2年半分の記録を掲載しています。としょかんやコミュニティに関わるきっかけに。

5. 茶山台地域のことを知る

リノベーションや近隣パートナーのことも掲載しています。転居や地域情報の参考にどうぞ。

CONTENTS

- 02 人が集まる「場」をつくろう
- 04 茶山台としょかんHistory
- 07 【立ち上げ期】 episode 1・2
- 08 【定着期】 episode 3・4
- 09 【発展期】 episode 5・6・7・8
- 11 【引き継ぎ期】 episode 9
- 12 【コミュニティ形成期】 episode 10・11・12
- 15 地域でコミュニティ支援をする5つのポイント
- 16 現在の公社茶山台団地の活動内容

茶山台団地 はこんなところ

大阪府の南部、堺市南区の一角に、まちびらきから半世紀を迎えた泉北ニュータウンがあります。泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅を最寄りとした茶山台団地は、駅から徒歩10分圏内にある大型団地です。30棟あまりの団地群に1200戸あり、高層建築がなく、丘陵に建っているため雄大な景色を眺めることができます。

春にはウグイスが鳴き、野鳥がたくさん棲む公園や森にも徒歩3分。桜や銀杏など四季折々の風情を感じる木々に囲まれた緑道は、歩行者専用で安全。ランニングコースとしても人気です。また、堺市や大阪府との連携で団地再生のモデル地区に選ばれ、コミュニティづくりやリノベーションなど新しい団地活用の取り組みが注目を集めています。リノベーション賃貸「ニコイチ」はそのプロジェクト全体に対してのグッドデザイン賞を受賞(2017年度)しました。

Hello!

こちら「茶山台としょかん」

「茶山台としょかん」とは、大阪府住宅供給公社(以後、公社)が管理する「公社茶山台団地」にできたコミュニティスペースです。2015年11月に公社の団地再生事業の一環としてスタート。利用機会の減った集会所を再活用し、住人さんからの持ち寄り本を集めて、「としょかん」となりました。ひらがなで「としょかん」としたのは、公共性をイメージでき、かつ、本を読みに来るだけにとどまらず、地域の人が気軽に立ち寄れる場所になればという思いから。現在の開館日は毎週3日間。運営スタッフとボランティアの協働のもと、乳幼児のいる家族から子どもや年配者まで多様な世代が集まる場所になっています。少子高齢化、暮らし方の変化などにより「人が集まる」ことの価値も新しくなりました。単なる絆づくりではなく、地域の暮らしの魅力をつくる役割(義務ではなく参加者が楽しみながら!)を担っています。ゆくゆくは自立した運営が出来ることをめざして取り組んでいます。

所在地

堺市南区茶山台2丁1番(19棟集会所内) ☎072-355-3225

開館時間：水曜日 13時～17時、金曜日・土曜日 10時～12時・13時～17時



春の茶山台団地。敷地中に桜が咲き誇ります。

茶山台としょかんHistory

2015年11月から始まった茶山台としょかん!その歩みをご紹介します。

団地ができた当時は頻繁に使われていた3つの集会所。そのうちの1つである

19棟集会所に再び人が集うまでの歩みには、5つの段階がありました。



立ち上げ期

定着期

Year ▶

2015-2016

2016

Month	Event	Comment
2	・暮らしを考える「コーシャミライイギ」スタート	公社設立50周年事業として
5	・公社全職員向けワークショップスタート	「コーシャミライイギ」が発展
6	・ワークショップで団地活用アイデアが50案生まれる	団地に住みながら実践する企画が持ち上がり、ワークショップを担当していた東さんに白羽の矢が立つ
9	・初めて東さんが茶山台を視察	住まい候補のうち、集会所や学校に近い部屋に決める
11	・東さんが大阪市から転居	まちや団地内を歩く人の少なさに心細くなる
12	・集会所を「としょかん」にするためイベントを企画	全戸配布のチラシに東さん(2歳時)の顔写真を入れるが逆に怪しまれる episode1
1	・ウェブサイトやSNSを整備 ・屋台「としよカフェ」の制作スタート ・「泉北をつむぐまちとわたしプロジェクト」に参加 ・団地茶道部さんを訪問 ・広報紙「としよだより」初号を発行、全戸配布へ	一人で大工仕事に精を出す episode2 地域活動との連携を模索 野点イベントの相談 3時間かけて全棟を回るがへとへとになる
2	・屋台「としよカフェ」完成 ・定期開館日を水、金、土(または日)と定める ・趣味のスティールパンを子どもたちに教え始める	お茶、コーヒーの提供を野外でスタート 冬空の下に閑古鳥が鳴く毎日 これが子どもたちの人気に!
3	・スティールパンを教えた子ども2名と「団地楽団」結成 ・NHKなどメディアの取材が複数入る ・地域の子育てグループと知り合う ・後に第2期としよ係になる白石さんと団地内で出会う	団地前の大蓮公園で開催されたイベントに参加 放送翌日、突然地域の有名人になり焦る お花見などに呼ばれ「ご近所」認定 引越の下見に来ていたらしい

Month	Event	Comment
4	・お茶の野点と箏の演奏会 ・まわしよみ新聞 ・東さんが恭子さんと結婚し団地に同居	茶山台の重鎮や老人クラブの方が参加 としよ係が東夫婦2人体制に
5	・泉北のよみかかせボランティア岩本さんと初コラボ ・住民さんと「暮らしづくりミーティング」 ・0円マーケット初開催 ・野菜の移動販売をとしよかん裏でテスト実施 ・連合自治会館のふれあい喫茶に参加 ・持ち寄り昼ごはん会を企画 ・茶山台小学校の運動会見学 ・地域連携チーム「ちゃやミーツ」結成	よみかかせと工作の毎月定期開催へ 0円マーケットのアイデアが生まれる episode3 毎週定期開催へ カラオケにも誘われる 参加者ゼロにややへこむ 小学校の広報誌に取材を受ける episode4
6	・連合自治会の盆踊り練習会に参加 ・茶山台プラットフォーム会議に参加(公社主催) ・0円マーケット ・暮らしづくりミーティング、まわしよみ新聞 ・ボランティアスタッフの募集を開始	東夫婦が最年少で期待の星となる なんと丸太を切る電動マルノコが出品
7	・夏休み ・宿題持ち寄り会	開館前から子どもたちが起こしにくる事態に!
8	・「ちゃやミーツまつり」 ・茶山台としよかん夏の清掃除を子どもたちと企画 ・東夫婦が地域の盆踊りに参加	大階段流しそうめん、巨大紙相撲大会などを実施 としよだよりの配布も手伝ってくれるように 抽選会に当選したが先に帰っていたため、翌日 団地住人さんに景品を届けていただく



堺市と連携した「泉北ニュータウン 先進的住戸リノベーション促進モデル事業」を皮切りに、大阪府住宅供給公社と民間企業がパートナーになり、2014年から茶山台団地の再生に取り組んでいます。

まず、「DIY@SCHOOL at 公社茶山台団地」がスタート。初心者が大工や塗装工などプロ集団にDIYを学びながら団地の空き住戸をリノベーションする全21回の講義に、のべ500人以上が参加しました。完成した5戸は、実際に賃貸住宅として入居者が募集されました。

そして、2015年には、隣り合う45㎡の2つの住戸を一つにつなぎ合わせ、90㎡の住戸にリノベーションした「ニコイチ」が募集を開始。団地ならではの魅力を活かした、これまでにない企画や物件をつくることで「コミュニティ」や「DIY」に関心の高い若い世代の住民さんの入居が増え始めていたことも、後の「としょかん」活動の追い風になりました。

公社団地リノベーションの取り組み

「としょかん」先駆けてこんなことやりました！



大阪府住宅供給公社 田中 三さん

発展期

引き継ぎ期

2016-2017

2017

Month	Event	Comment
9	<ul style="list-style-type: none"> ・こども会議を初開催&レイアウトの変更 ・情報誌「泉北コミュニティ」でボランティア募集 ・0円マーケット ・巨大紙相撲「親子カ士づくりワークショップ」で小学校と連携 	<p>episode5 高尾さん、前川さん、白石さんが参加 episode6 住人さん同士が品物を勧め合うようになる 朝礼に東さんが登場し、子どもたちがビックリ</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ・0円マーケット、よみきかせ会 ・大蓮公園「まちのすみかを楽しもう」に巨大紙相撲で参加 ・こども会議 	住人さんからコーヒーの差し入れをいただくように準備を巡り東夫婦が大げんか(イベントは大成功)
11	<ul style="list-style-type: none"> ・としょかん1周年の「ご近所フェスティバル」を開催 ・後にとしょかんを引き継ぐNPO法人SEINの湯川さんが訪問 	子どもの自主企画「キッズファッションショー」開催 →episode7
12	<ul style="list-style-type: none"> ・大掃除と忘年会を開催 ・老人クラブのお餅つきに参加 ・第1回茶山台だいがく「梅と健康」を開催 	30体の折り紙サンタを子どもからプレゼントされるバザーの残り物を0円マーケットにいただく 住人さんの講師立候補で実現 episode8
1	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回茶山台だいがく「書き初めとストレッチ」 ・地域を考える夜ご飯イベント「ちゃやのま」初開催 	なぜか「人らしく」と書くのが流行る ちゃやミーツの企画
2	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回茶山台だいがく「春節講座 中国ってどんな国?」 ・第4回茶山台だいがく「無農薬味噌づくり」 ・バレンタインデー 	episode8 episode8 としょかんが子どもたちの告白大会場と化す
3	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち作成の冊子「ザ・chayama」をイベントで販売 ・第5回茶山台だいがく「家計簿講座」 ・団地内で火災があり、閉館日返上で連日開館 	商魂たくましく30冊以上を売り上げる 普段以上に地域のより処となる

Month	Event	Comment
3	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期ととしょかん夫妻の退任&卒業式 	東夫婦が涙。サプライズ大成功!
4-5	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期に向けての準備期間で休館 ・ボランティアの有志で、継続開催してきたよみきかせ会や0円マーケット、ラジオ体操を実施 	「終わった」ではなく「次なる準備をしている」ことを伝え続ける
6	<ul style="list-style-type: none"> ・東夫婦の結婚式「団地deウェディング」開催 ・としょかん引き継ぎ式 	150人以上の参加者で賑わう 団地deウェディング当日に開催 episode9

History番外編

としょかんの日常



大人が何か作業をしていると、子どもたちも自然と手伝ってくれます。一緒に「茶山台レモン」の看板を設計中!



平日昼間は大人たちの憩いの時間。お茶菓子をもち寄ってお話する「としょかふえ」を楽しんでいます。



閉館時にはみんなでお片付け。小さな子どもたちもほうきを持ってお掃除してくれるようになりました。



高学年の子どもたちはとっても面倒見がいいんです。将棋のルールも、お兄ちゃんたちから学んでいます。



「としょかん」なので、もちろん静かに本を読む人も。絵本から純文学まで、様々な本を寄贈いただいています。

コミュニティ形成期

Year ▶

2017-2018

Month	Event	Comment
6	・ 7日、第2期の運営スタート	ドキドキのスタート。開館を「待ってましたー」と言わんばかりにたくさんの方が来館してくれて嬉しい
7	・ としょだより配布を再開 ・ 0円マーケット再開	印刷や折り作業、ポスティングを住人さんや子どもたちと手分けして行う ちややマルシェなど他のイベントとも重なり、たくさんの人で賑わう
8	・ 虹染めと香りの絵本づくりワークショップ	episode10
9	・ 泉北レモンの街ストーリー@公社茶山台団地の植樹祭 ・ 「オトナカイギ」を初開催	泉北の地域活動と団地がコラボ episode11 以後、毎月1回の定期開催へ episode12
10	・ としょだより編集会議発足に伴い、としょだよりをリニューアル ・ 2号目となる『ザ・chayama秋号』完成 ・ ハロウィンパーティ開催	としょ係以外のボランティアの形(デザイン、編集など)が生まれる ライター経験のあるボランティアスタッフが監修 学校で噂になり、普段としょかんに来ない子どもも含め28名が参加
11	・ CHAYA FESIに出店 ・ 空き家モーソー会議開催 ・ ボランティアミーティング開催	episode11 episode12 以後、毎月1回の定期開催へ episode10
12	・ “茶山台としょかんのやくそく”をリニューアル	「非日常」だったとしょかんが住人さんにとって「日常化」してきた →誰もが過ごしやすいルールを再考、見える化に取り組む
1	・ アンケート実施 ・ 第6回茶山台だいがく「快適エコ生活ミニセミナー」 ・ オトナカイギ&アンケート説明会実施	episode12 episode12

次のページから、印象的だったエピソードの内容と住人さんなどの声をご紹介します!



立ち上げ期



「立ち上げ期」をレポートした人
第1期とし係 **東善仁** さん・**東恭子** さん

誰ひとり知り合いの居ないまちに、とし係として引越。本箱をつくることから茶山台としょかんが始まりました。

本箱ワークショップ



集会所を「みんなのとしょかん」にするための本箱づくりワークショップを開きました。手ぶらで参加できるように材料や工具は木工教室さんの協力で用意。募集チラシを全戸に配布しました。ところが事前申込は0人!!開始時間になっても誰も来ません…。寒空の下、団地のなかを走りまわって参加してくれる住民さんを探しました。興味を持ってくれた5組のご家族と一緒に何とか完成した本箱。不思議なもので本箱があるだけで、いつもの集会所がわくわくする空間に変わりました。「こんにちは～。ここ入っていいですか?」という声が、嬉しくて泣けました。



「読まなくなった絵本やマンガの寄付をお願いします」そう呼びかけると、子育てが終わったお母さんが児童書をたくさん持って来てくださり、年輩の方の自宅であふれていた小説なども集まりました。けれども、「としょかん」に入ってひと時を過ごす人はなかなか増えません。そこで、作戦変更!外に立って人を呼び込もうと、手作りで木製の屋台を作り、コーヒーをふるまいながら通りかかる住民さんと交流を広めていきました。屋台は、いつもの団地の風景を新鮮にするコミュニケーションの仕掛けになりました。ただし、冬に始めるのはお勧めしません。とにかく寒いし、誰も来ないと心が折れます(笑)

手づくり屋台
「としよカフェ」が完成!



応援隊の声

作り手としては、本当に続いていくのか不安しかったです。茶山台としょかんは世代・男女関係なく関わって、自分らしく楽しめる空間!



リーラボ-Re Lab-
谷拓也 さん

DIYや木育の分野で活躍。としょかん初期の本箱づくりワークショップの先生として関わる。

住人さんの声

東さんが屋台を作っていた時から見ているが、こんなに賑わうとは思ってなかったので嬉しい。としょかんは子どもたちが喜び、大人も参加でき、話し合いができる場。いつの時代も茶山台の子どもは財産!



植野守茂 さん

昭和50年代に団地住人に。定年を迎えて地域活動に参加し、今は朝夕の見守り隊として活動中。

住人さんの声

開館当初は大変そうだなあと思いつつ応援していました。今では孫と散歩の途中に立ち寄り定番の場所になっています。



門脇まゆみ さん

お孫さんを連れて時々遊びに来てくれる団地住人さん。お家の本を寄贈してくださったことも。

定着期



「定着期」をレポートした人

第1期としよ係 **東善仁**さん・**東恭子**さん

週に3日の開館。近隣の小学校が春休みに入ると子どもたちが集まりはじめ、その親御さんも「としょかん」に立ち寄ってくれるように。定期イベントを通じてコミュニティルームとして団地近隣に馴染んでいきました。

おすすめイベント
「0円マーケット」



団地内にある「としょかん」ですが、茶山台地域との関わりをもつことで可能性が広がる気がしていました。風通しよく、立場を超えて集まろうという呼びかけに賛同したグランドオーク百寿の大辻さんや公社さん、住人さんが中心になって隔週水曜日の午前中にミーティングを始めたのもこの頃です。お茶をしながら気軽に楽しく、まじの話をすなかで「流しそうめん大会」「巨大紙相撲大会」などの催しも企画。横のつながりが増えて、団地外の方にも「としょかん」の取り組みを知ってもらえました。地域のカフェでミーティングすると、「なに話してるんやろ?」とみんな気になるんです。たまに、としよ係の東夫妻が激論を交わし、夫婦仲を心配されたのはご愛敬。

地域でつながるために
ちややミーツ結成!



「使わなくなった食器や洋服を捨てずにおすそわけしたいなあ」ある日、住民さんが言ったアイデアがきっかけで、お金を介さない0円マーケットが始まりました。出品だけでも、持ち帰りだけでもOKです。これが月1回の大人気イベントに!自宅から「発掘された」品物がたくさん持ち寄られて、新しい持ち主の手に渡っていきました。「あんたこれ似合うで」「うわ、これええやんか〜」という声で賑わい、品物を通して新旧の住民さんや、子育て世代同士の交流が広がりました。出会いの場が生まれたことで居場所としての定着がステップアップ。当日品物を持って来れない方には、前日の受け取りも可能としたことで品物が集まりやすくなりました。



住人さんの声

入居する前から茶山台暮らしのお話を聞いてありがたかったです。普段の暮らしの中で話せない方たちととしよかんを介してつながりが生まれています。



第2期としよ係
白石千帆さん

ニコイチへの引越をきっかけに茶山台住人。第2期としよ係として奮闘中!

茶山台としよかんの第一印象は、「かなりあやしいおじさんの謎の取り組み」…(笑)ほんとにフラッとよれる温かな空気が魅力だと思います。

応援隊の声



OAKカフェ店長
大辻佑介さん

ちややミーツなどでコラボすることも多い。気さくな笑顔が素敵な「みんなのお兄ちゃん」。

としよかんはゆるーい感じがなんとも言えずステキ!大人も子どもも、団地の住人さんでなくても、誰でもウェルカムなところがいいですね。

応援隊の声



学校図書館サポーター
岩本真佐子さん

月1回開催のよみきかせ会&工作でおなじみの、図書ボランティアさん。